

有明高専だより

第114号
2004.11



高専祭のために製作した機械工学科中庭の水車



目次

特集 学生実態調査から	2・3	九州沖縄地区・全国高専体育大会等	10・11
シリーズ 研究室訪問	4	英語弁論大会・ホンダエコラン・国際交流の集い	12
シリーズ 中学校訪問	5	ロボコン・プロコン・デザコン	13
公開講座・ロボットJリーグ	6	表彰・資格試験合格者	14
夏季実習報告	7	シリーズ クラブ紹介	15
第24回高専祭	8・9	トピックス・編集後記	16

※本文中ににおいて、学生氏名の前にある英数字は、所属クラスを表します。

数字は学年、英字は学科(M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専・専攻科)です。

建築棟北庭

学生の実態調査結果から

本校では、毎年1年生から3年生までを対象に実態調査を行っています。今号の特集では、平成10年度から今年度まで実施した実態調査、特に学習面における調査結果について報告します。

図1は「学習意欲がある」と答えた学生の割合を示しています。8割近くの学生は意欲を持っていることがわかります。

では意欲に対してその取り組みはどうなっているでしょうか。図2は「勉強に対する取り組み具合はどうですか」の問に対し、「がんばっている」と答えた学生の割合です。数年前と比べるとわずかではありますましたが増加しており、最近では半数を超える学生ががんばって取り組んでいると回答しています。しかし、「自宅学習時間は一日平均どれくらいですか」の問に対し、「2時間以上」と回答した学生は平成16年度においてはわずか5%です(図3)。因みに1966年は80%以上の学生が「2時間以上」自宅学習をしていました(図4)。また、学年別の自宅学習状況(平成16年度)は図5に示すように、上学年になるにしたがって学習時間が減っている傾向にあります。本来ならば、学年が上がるにつれ専門科目や実験実習が増加し、それに伴いより一層自宅学習に時間を割く必要があると考えられるのですが、どうもそういう結果にはなっていないようです。

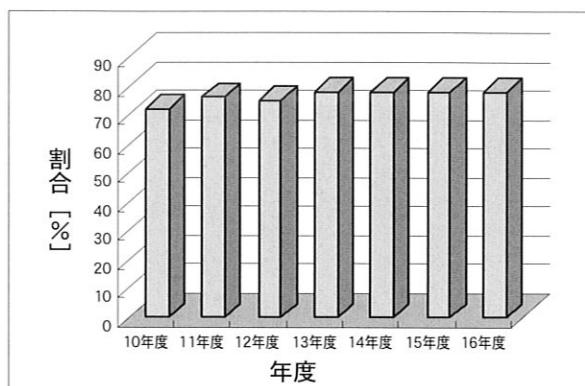


図1 「実際に勉強しているかどうかは別にして学習意欲はありますか」という問に対し、「はい」と回答した学生の割合

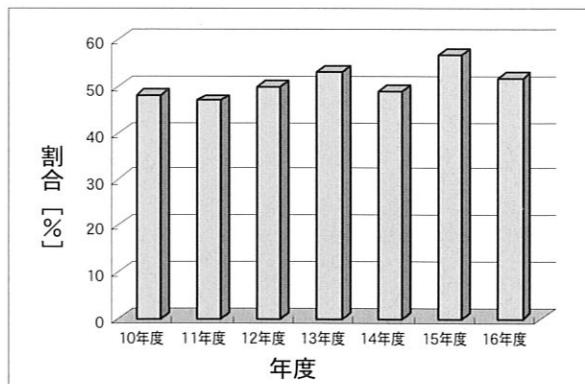


図2 「勉強に対する取り組み具合はどうですか」という問に対し、「がんばっている」と回答した学生の割合

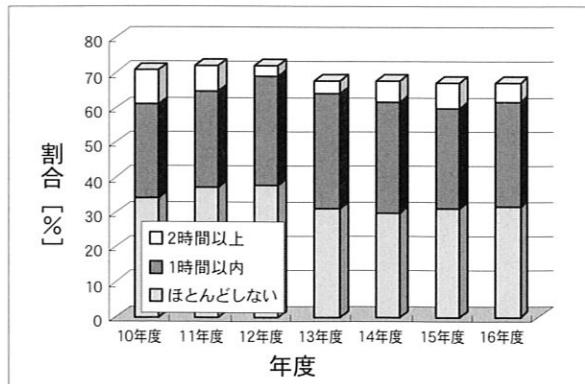


図3 「自宅学習時間は一日平均どれくらいですか」という問に対する回答

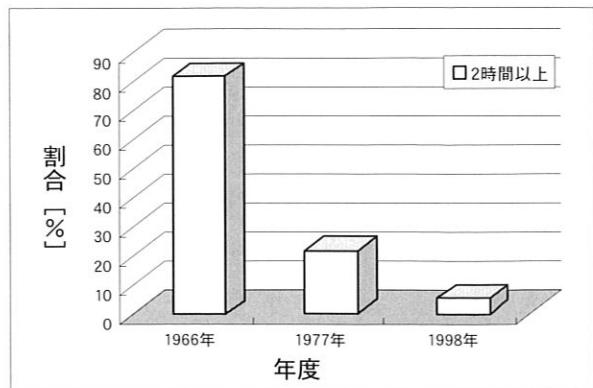


図4 学生の自宅学習時間の推移

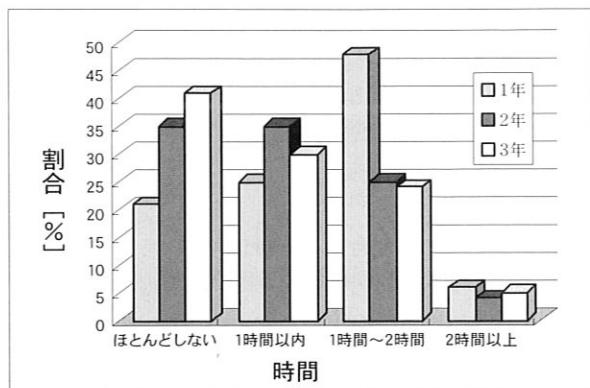


図5 平成16年度における「自宅学習時間」の学年別統計

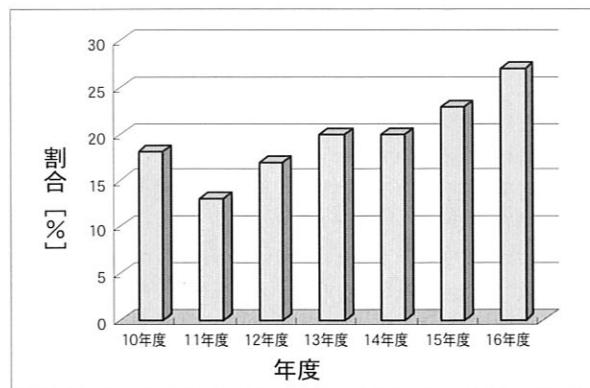


図6 「全体的に見て今行われている授業に満足していますか」という問に対し、「満足している」と回答した学生の割合

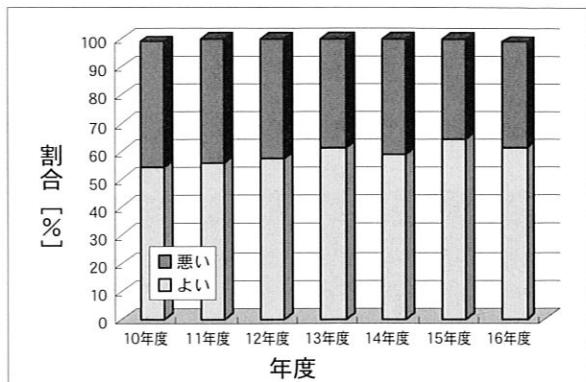
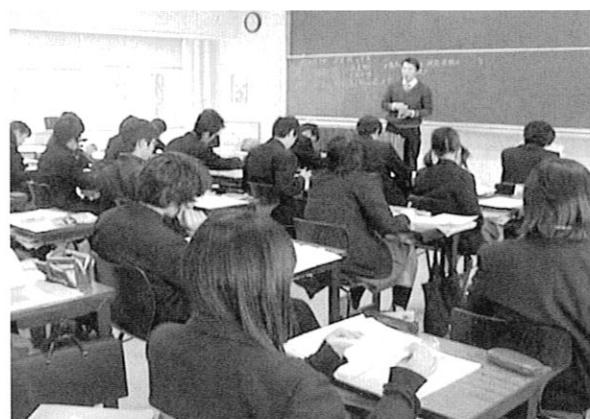


図7 「授業を受ける態度はどうですか」という問に対する回答（「よい」…「集中して受けている」または「ふつう」と回答した学生、「悪い」…「ぼんやり」、「ときどき眠る」、「ほとんど眠る」と回答した学生）

さて、授業の状況はどうでしょうか。図6は授業に対する満足度についての結果です。「満足している」と回答した学生数も年々増加しています。平成12年度から実施されている「授業改善アンケート」の結果に基づいた「教える側」の授業改善への取り組みなどの成果を反映したものでしょうか。

また、授業中の態度についても「よい」と回答した学生が徐々に増加しています（図7）。

「やる気はある（図1、図2）けれど、行動にうつせない（図3）」学生が増加してきているのでしょうか。これらのデータをよく見て反省すべき点を考えてほしいと思います。

勉強するにあたって、「感動」「興味」「考える」の3Kを念頭においてほしいと思います。

（教務主事室）



シリーズ

研究室訪問

今回は、電子情報工学科の内海通弘先生と電気工学科の尋木信一先生の研究室を訪ね、お話を聞きました。

(聞き手 E科 泉 勝弘)

内海通弘 研究室 (電子情報工学科)

現在の研究内容についてお聞かせください。

今取り組んでいる技術は、光センシングとその（デジタル）情報処理です。光を用いて様々な計測ができますが、そのもっとも便利な点は、居ながらにして遠くのところのものを測れることです。具体的な測定対象としては、1km程度の煙突から出ている煙、空気の塵やガス、セントレンズのような火山から成層圏に注入された火山灰、二酸化炭素などの地球温暖化分子、樹木や森の活性度等のイメージ画像、90km上空の金属元素などです。現在、これらを計測中または計測システムの開発を行なっています。

この研究を始められたきっかけは？

中学生のとき美術の時間に先生が色の説明をしていました。赤い服は赤以外の色を吸収するから赤いのだ、と説明していたことが理解できませんでしたが、妙に頭に残っていました。光を使えば、何万光年の遠くにある星の温度や遠ざかっている速度や、どんなガスがあるかさえわかつてしまうのはすごいですよね。光はたくさんの情報を持っているので面白い。だからやってみよう。

今後の研究の展開についてお聞かせください。

今後も光センシングは重要だと思います。光で測定したものを処理・視覚化して、理解しやすい形に表示することをしたいと思います。インターネットによる自動センシング・システムの設計や画像処理もやっていきたいと思います。

学生へ一言お願いします。

就職するにせよ、進学するにせよ、30歳までは勉強と決めてやって欲しい。専攻科は、環境、諸条件とも非常に良いところです。岩をドリルで打ち砕くように、勉強してはどうだろうか。それから大学院に行ってもまだまだ若い。本当にやりたいことは50代、60代でできればいいのではないでしょうか。それまで勉強です。



尋木信一 研究室 (電気工学科)

現在の研究内容についてお聞かせください。

私が現在、主に取り組んでいるのは、e-Learningに関する研究です。これは、パソコンやコンピュータネットワークなどを利用して教育を行うことです。e-Learningを実現するためには、コンピュータを使って学習するための教材、成績・達成度状況などを閲覧・管理するための機能や学習者と教師側とのコミュニケーション機能などが必要です。e-Learningを利用する目的としては、例えば、インターネットにつながるコンピュータさえあれば学校に行けなくても授業が受けられる（授業置換型）と、従来の授業を補足するための自主学習教材（授業補完型）などが考えられます。

この研究を始められたきっかけは？

昨年、新しい研究の方向を模索していたときに、「教育」に興味があり「プログラミング（ソフトウェア）」が得意だったので、どうせならその2つで何かできないかと考えて今の研究分野に足を踏み入れました。

今後の研究の展開についてお聞かせください。

e-Learningの方は、自主学習の手助けになるような教育支援システムを作りたいと思っています。そして、E科だけでなく学校全体で使われるようなシステムを作るという野望があります。

新しいものとしては画像処理に興味を持っています。特に、認識の方で、例えば、プレゼンテーション時に発表者をカメラで捕らえて、発表者の身振りを認識し、マウスを使わずにスライドをいわゆる遠隔操作するとか。あるいは教室をカメラで捕えて、居眠りしている学生を認識するとかなったら面白いなと思いますが、学生の皆さん大変ですよね。

学生へ一言お願いします。

「セレンディピティ(Serendipity)」という映画を観た人もいるかもしれません、私は全ての事には意味があると考えています。今、うまくいかなくて苦しいなと思っている人も、それは将来の成功あるいは先に起こる何か楽しい出来事のための伏線かもしれません。将来のことを考えて今を楽しんで下さい。



シリーズ 中学校訪問

大牟田市立甘木中学校



谷口慎也校長先生 校長室にて

去る10月20日に大牟田市立甘木中学校を訪ね、谷口慎也校長先生にインタビューしました。

出口：甘木中学校の概要、教育目標、特色などについて教えていただけませんか。

谷口校長：本校は昭和23年4月に大牟田市第九中学校として創立しました。昭和27年に甘木中学校と改称しました。現在の生徒数は471人で男子が238人、女子が233人です。

教育目標は「21世紀を拓く、人間性豊かでたくましく生きる甘木中学校生徒の育成」です。教育方針は、目指す生徒像として、

- 1) 自ら考え、学ぶことのできる生徒
- 2) 人権を尊重し、思いやりのある生徒
- 3) 健康で安全な生活のできる生徒

を掲げています。

特色としては、本校は15年度から17年度にかけて、福岡県の人権教育の指定、つまり人権教育推進校の指定を受けています。これが他校にはない本校の大きな特色の一つです。

出口：人権教育指定校について教えていただけますか。

谷口校長：すべての科目において授業の中でどのように人権教育の視点をいかしていくのか。すべての科目で人権教育の視点またはその視点に立った授業のあり方について考えます。そして、人権教育の視点を各授業でどのように実践していくか、またその後に部活動などを含めた日常生活の中でどのように反映していくのかレポートしていきます。ある意味では教育課題であると考えています。本校では学び方・ものの見方・考え方・感じ方を身につけ、生徒の主体的問題の解決ができるような指導の改善を目指しています。私はこれまでの学力とこれらの学力の概念について教師も学生もえていかなければならない時代に来ていると思います。そのためには学力を育てる教育的風土（環境）を変えていく必要があります。学力を身につける場合において、お互いを理解しあうことができる人間関係やお互いの人間性を認め合う風土から身についた学力は人を幸せにし、またその人は

幸せになる道を知っています。しかし人間同士認め合っていない風土から出てきた学力は社会に出てからさびしい人生になるでしょう。つまり、人間形成の根底にはやはり人権教育というものがあると思います。

出口：人権教育指定校は県内にいくつかあるのですか。

谷口校長：人権教育指定校は本校だけです。県内のいくつか選ばれた中学校では、生活指導、地域連携など他のテーマで指定を受ける学校はあります。

出口：他に何か力を入れてはいることはありますか。

谷口校長：あいさつと余裕を持った行動（五分前行動）です。あいさつはみんなできていますが余裕を持った行動は今努力しています。他にはコンピュータ関係には力を入れています。情報は無限大ですがそのチョイスの方針は重要です。

出口：部活動について教えていただけますか。

谷口校長：野球、男子バスケ、女子バレー、男子剣道、女子柔道、テニス、今年から男子ハンドが復活しました。

出口：今年のインターハイで甘木中学校出身の井形君が優勝しましたが、陸上部はどうですか。

谷口校長：陸上部はありますが、残念ながら今のところは各部活からの寄せ集めで活動しています。（谷口校長は今年の4月に甘木中学校へ赴任されたため井形君のことは知らなかったそうです。残念）

出口：文化部はどうですか。

谷口校長：パソコン、家庭科、美術、プラスバンドがあります。プラスバンドは特に盛んで地区の代表にも選ばれています。

出口：学校行事などはどうですか。

谷口校長：体育会が2年あって文化祭が1年という具合であります。また、合唱コンクールも行っています。

出口：本日はお忙しい中、貴重なお時間を頂きましてありがとうございました。

甘木中は国道からちょっと入ったところにあり、周囲も木々で囲まれているため、騒音もなく静かな緑に囲まれた環境でした。また、当日は台風23号のため学校も休校で、よりいっそう静かな中、甘木中学校を後にしました。最後に校門にあるスマイル甘木のあいさつのパネルが印象的でした。

（聞き手：C科 出口智昭）



甘木中学校校舎とスマイル甘木のパネル



パソコンで描く水彩画
8月4日(火)・5日(水)・6日(木) 小中学生



マインドストームで遊ぼう
～レゴブロックを使ったロボット製作～
7月29日(木)・30日(金) 中学生



やさしい化学と生物の実験
7月29日(木)・30日(金) 中学生



夢・化学-21
～不思議な物質の世界を体験しよう～
7月27日(火) 小学生



紙で橋をつくろう！
7月29日(木)・30日(金) 小中学生



コンピュータでものづくり
9月5日(木)・12日(木) 市民一般



楽しい電子工作教室
8月2日(月)・3日(火) 中学生



パソコン活用術
9月11日(土)・12日(日) 市民一般

公開講座



ロボットJリーグ有明ステージ2004

8月7日(土)13:00より、大牟田文化会館において、本校主催「ロボットJリーグ有明ステージ2004」が開催されました。

大牟田・荒尾兩市から参加した小・中学校29チームが、7月26日から本校で製作したサッカーロボットを操縦して、シュート部門とドリブル部門の予選を行い、成績上位の小・中学校各2チームが決勝トーナメントで優勝を争いました。大会では、様々な工夫や装飾をこらしたマシンが、シュートやドリブルで、熱戦を繰り広げました。

また、翌8日㈰には、荒尾シティーモールにおいて小・中学校8チームによるエキシビションマッチも行われました。

◎ロボットJリーグ有明ステージ2004（本大会）

優勝	大牟田小学校チーム(ファイアー! ドラゴンズ)
準優勝	荒尾第二中学校チーム(荒尾二中)
優秀賞	緑ヶ丘小学校Aチーム(ドラックス)
優秀賞	大牟田中学校Aチーム(KY2)
アイデア賞	荒尾第五中学校Aチーム(ステーション)
美術賞	八幡小学校Aチーム(美少女スター)
ロータリークラブ賞	駢馬南小学校Aチーム(さわやかボーイズ)
大牟田市教育委員会賞	三川小学校Aチーム(みかわーず)
荒尾市教育委員会賞	荒尾第四中学校Aチーム(フルアタック)



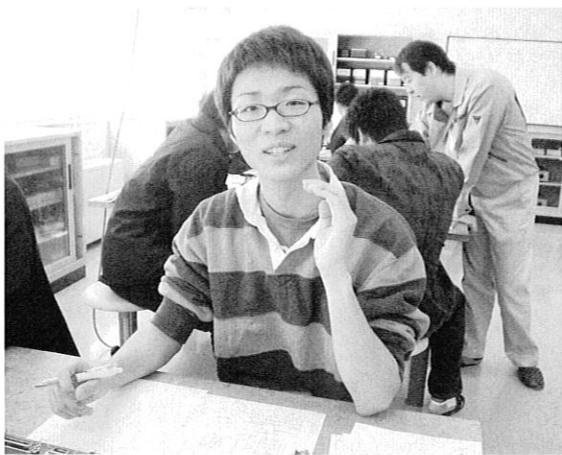
夏季実習報告

インターンシップに参加して

4 I 松 永 剛 幸

私が今回インターンシップに参加したシティアスコムは、シティ銀行の系列として業務を行っている。シティ銀行の合併によりシティ銀行からの仕事がなくなるので、現在銀行業務により培ったノウハウを売りに、活動の範囲を拡大中だそうである。

今回のインターンシップでは、Visual Basic (VB) を用いて社員データを編集するプログラムを作成する課題に取り組んだ。このプログラムの主な動作は、登録、更新、削除の3つで、私は外部設計が終わったものを与えられ、それに沿った内部設計と、詳細設計書の作成を行った。しかし、VBの特性を理解していない状態での詳細設計となつたので、当初は形だけの作成となり、レビューで受けた指摘を基に作成しなおすことになった。詳細設計の後はコーディングに入り、用意されていた数冊の本を参考しながら作成した。また、1日の終わりにはその日の進捗を報告し、日報を作成・提出した。本来の予定ではコーディングの後にテストを行う予定だったが、例年よりも短い日数に加え台風の影響もあり、テストは行えずコーディングのみとなつた。反省会では全体を振り返っての感想・来年への要望などを述べインターンシップを終了した。職場の雰囲気は、社員全員が机に向かってプログラミングをしているわけではなく、オフィス外で仕事をしている人も多いようだった。想像していたほど張り詰めた雰囲気ではなかった。このインターンシップでは多くのことを経験させていただいた。これらを、今後に生かしていきたいと考えている。



4 I 松永君

夏季実習を終えて

4 C 江 副 由 佳

私は、8月2日～8月10日まで大牟田市企業局の南部浄化処理センターに実習に行ってきました。南部浄化処理センターの方々は皆さんとてもいい方々で一日目から親しく話しかけてくださったり、一緒に卓球などをしても和やかな実習でした。ここでは、大牟田市のほとんどの地区を手錠にある北部浄化処理センターと分けて、家庭や工場から出た汚水や、雨水などを浄化しています。ここを出たきれいな水は諒訪川と大牟田川に流れ、有明海へと流れています。

この実習で最初に南部浄化処理センターでの浄水の過程や、実験室にあるとても値段の高い機材の用途や使い方などを学びました。それから、家庭や工場から流れてくる水がどのくらい汚れているかということを測ることのできる、BOD・COD・SSなどを測定し、その汚れを微生物たちが食べてきちんときれいな水になっているかということを窒素・リンの量を調べました。それらの実験は学内でしている実験と要領が似ていたので、思いのほかすんなり進められ、ほっと一安心しました。

また、この実験の最終日には企業の方々の前で発表をする予定となっていたので、私は下水処理にはなくてはならない微生物を調べました。そのため顕微鏡で浄化途中の水をのぞくと色々な生物が観察できました。しかし、なかなか微生物が発見できず、時間がかかってしまったため、水が蒸発してしまい微生物が死んでしまったこともありましたが、企業の方はすぐ見たい生物を探し出していたのでやっぱり年期が違うと感じました。幼いころに下水処理場を見学した記憶がありましたが、そのときはただ汚い水がきれいになっているということしかわかりませんでした。しかし、今回の実習でなるべく化学薬品を使わず、微生物が汚水を分解してきれいにしていることや、大牟田市の南部と北部の浄化処理センターでは放流の基準値よりもとても低い値の水を海に流していることがわかり、それによって有明海が少しでもきれいになってゆけばいいと思いました。また、学校の実験で学んだことが学外で使われていることもわかりとてもうれしく感じました。そして企業の方は、私たちが来ても通常業務があるというのに、とても親切に教えてもらつて感激しました。短い間でしたがこの実習で学んだことは、今後とも役に立つと思いました。



右端が4 C 江副さん



機械工学科

電気工学科

電子情報工学科

電子情報工学科



24th

高専祭

10月30日(土)・31日(日)



有明革新



建築学科

物質工学科



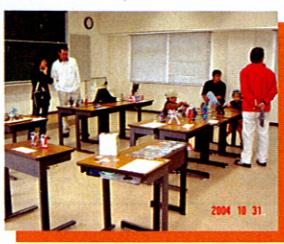
図書館ギャラリー



文科系クラブ



クラブ・バザー





文化クラブ棟コンペ発表会



文化講演会

『アーチェリーと私』 江頭 信次 氏

高専祭に先立ち、30日(土)の午前中、第一体育館において文化講演会が行われました。講師は、アテネオリンピックでアーチェリー競技の審判を務められた江頭信次氏で、多くの経験から学ばれたことや、オリンピックでのエピソードなどの貴重なお話を聞かせていただきました。

A photo of Kenji Echigo, the lecturer, speaking at a podium.

美術ギャラリーオープン

図書館1Fに美術ギャラリーがオープンし、31日(日)に式典がとり行われました。



9



テクノフェア・2004



第41回（平成16年度） 九州沖縄地区高等専門学校体育大会成績

7月10日(土)～11日(日)、16日(金)～18日(日)

【全】は全国大会出場

〈八代高専担当〉

◎陸上競技

【全】男子100m	優勝	井形 亮(3E)
【全】男子200m	優勝	井形 亮(3E)
【全】女子100m	2位	石橋絵美(4I)
【全】女子砲丸投	優勝	安田有希(3A)
【全】〃	2位	山口 佳(5A)
女子4×100mリレー	2位	栗山明子(2-3)・古賀あゆみ(1A) (オーブン)
		植尾友紀(1E)・石橋絵美(4I)



◎ソフトテニス

男子団体戦	3位
-------	----



◎バドミントン

【全】男子団体戦	2位
女子団体戦(オーブン)	優勝
【全】女子シングルス	2位
	3位
【全】女子ダブルス	2位
	3位

柿木美沙(3C)
柿木美紀(5C)
岡部広奈(5C)・猿渡 都(4I)
柿木美沙(3C)・柿木美紀(5C)



◎水泳

団体総合	3位
【全】男子100m平泳ぎ	優勝
【全】男子100m自由形	3位
【全】男子200mバタフライ	優勝
男子400mリレー	3位

井形史朗(5I)
東房 翼(4A)
山口大志(1I)
石田泰宏(5A)・淵上達矢(1A)
陶山俊介(3M)・東房 翼(4A)



◎ハンドボール

【全】男子	2位
◎ラグビーフットボール	初戦敗退 ※試合日11月13日(土)

〈都城高専担当〉

◎硬式野球

初戦敗退

◎バスケットボール

男子	予選敗退
【全】女子	優勝

◎卓球

男子ダブルス	3位	二反田裕樹(5E)・宮崎 進(3A)
男子シングルス	3位	宮崎 進(3A)
女子シングルス	3位	古賀綾子(5I)・越智亞祐美(4I)
女子ダブルス	3位	古賀綾子(5I)・金子絢美(3D)
女子団体戦(オーブン)	2位	



◎剣道

女子個人	3位	内野 愛(1A)
------	----	----------

〈鹿児島高専担当〉

◎サッカー

初戦敗退

◎バレーボール

男子	3位
女子	予選敗退

◎テニス

女子ダブルス	3位	濱田 綾(4C)・成清可奈(4C)
女子シングルス	3位	濱田 綾(4C)
男子団体戦	3位	
女子団体戦(オーブン)	優勝	



第39回（平成16年度） 全国高等専門学校体育大会成績

8月6日(金)～10日(火)



〈石川高専担当〉

◎陸上競技

男子100m	4位	井形 亮(3E)
男子200m	棄権	井形 亮(3E)
女子100m	7位	石橋絵美(4I)
女子砲丸投	7位	安田有希(3A)
"	予選敗退	山口 佳(5A)

〈富山高専担当〉

◎バドミントン

男子団体戦	初戦敗退	
女子シングルス	2位	柿木美沙(3C)
女子ダブルス	2回戦敗退	岡部広奈(5C)・猿渡都(4I)

〈福井高専担当〉

◎水泳

男子100m平泳ぎ	予選敗退	井形史朗(5I)
男子100m自由形	9位	東房 翼(4A)
男子200mバタフライ	6位	山口大志(1I)

〈豊田高専担当〉

◎ハンドボール

男子	予選敗退	
----	------	--

〈沼津高専担当〉

◎バスケットボール

女子	3位	
----	----	--

第34回 西日本地区高等専門学校弓道大会

7月21日(水)～22日(木)／八代市営弓道場

〈八代高専担当〉

男子個人	3位	西野裕介 (5M)
女子団体	4位	

平成16年度 全国高等学校総合体育大会 (インターハイ)

8月2日(月)～6日(金)／島根県立浜山公園陸上競技場

◎陸上競技

男子200m	優勝 (記録21秒32)	井形 亮(3E)
男子100m	5位 (記録10秒68)	井形 亮(3E)

第59回 国民体育大会（秋季国体）

10月28日(木)／熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

◎陸上競技

成年少年男子共通 4×100mリレー	3位	井形 亮(3E)
-----------------------	----	----------

英語弁論大会

11 坂本知栄子

英語弁論大会に参加して

私たちは、平成16年7月21日に北九州高専で行なわれた英語弁論大会に出場してきました。中学のときにも参加したことのある英語暗唱大会の経験を生かしたら、普通にできるものなのかと最初は思っていましたが、文章の長さ、単語の難しさなど、やはり中学のときは違う難しさがありました。中間テストが終ってから練習を始めました。夏休みも学校に来て練習し、取りかかりの遅かった分を早く取り戻そうと頑張りました。本番までにはなんとか仕上がり、ギリギリまで発音や動作の確認をしていました。本番になると2人共すごく緊張してしまい、セリフが飛んだり噛んだりしていました。賞は取れませんでしたが、私たちは、出ることに意義があるんだと言い合い、精一杯頑張ったつもりです。参加することにより、得たものはたくさんあったと思います。新しい友達、やり遂げる意志、協力して仕上げていく力。これらは私たちがこれから4年半高専で生活していく上

で、そして社会に出て仕事をこなしていく上で、とても役立つ事だと思います。弁論大会に出て少し成長した自分を見ることができたので、私は参加してよかったです。これからも『挑戦』することを忘れないで過ごしていきたいと思います。楽しかったです。

The 37th Kyushu Kosen English Speech and Recitation Contest



大会が終わって11坂本知栄子さん(左) 11野田雅子さん(右)

ホンダエコラン

5A 箱森昌太

新記録

僕たち自動車工学部は毎年夏に菊池郡大津町のHSR九州で行われる「ホンダエコノパワー燃費競技（通称エコラン）大会」に参加しています。エコランとは1リットルのガソリンで何km走れるか？という燃費を競う競技です。今年は過去最高の231.5km/ℓという記録を出し、今大会に参加している九州の高専の中でもトップをとることができました。マシンの製作は主に夏休みに行われ、部員一丸となってマシン製作を行いました。製作の流れを簡単に説明しますと、まずマシンにかかる応力計算を行い、それにより部材の寸法を決め、それから製図に取り掛かり、材料を加工し、マシンを製作していくといった流れです。製作のうえで幾度となく大きな壁にあたりましたが、様々な面において顧問の先生や技術職員の先生方にご指導を受けました。また、最後まで共に製作に参加し

てくれた後輩達へもこの場をかりて深く感謝の意を表したいと思います。後輩達には是非今年の記録を大きく上回るような記録を出してくれることを期待しています。



マシンと製作スタッフ

第12回 国際交流の集い

教務主事補 石丸智士

フレンドシップ弁論大会

10月24日㈰、大和町中央公民館において、「第12回国際交流の集い－フレンドシップ弁論大会－」が開催されました。本校留学生のロン君（5年物質工学科）とラフィック君（3年機械工学科）の2名が弁論大会に参加しました。日本人は外国語で、外国人は日本語でそれぞ

れの夢や思っていることなどについて話しました。ロン君は「現代人と科学発展」というタイトルで、ラフィック君は「カルチャーショック」というタイトルで、話をしました。惜しくも賞はのがしましたが、2人とも自分の考えや感じたことを日本語で来場者に伝えてきました。



後列左から3人目がロン君、4人目がラフィック君



応援の留学生たちと

ロボットコンテスト

今年のロボコン

5M 中島 正寛

今年のテーマは「マーズラッシュ」。試合時間3分で遠隔操縦ロボットや自律ロボットを駆使し、火星に不時着した探査機（アメフトボール）を救出し、目的地（オリンポススポット）により近づける競技だ。

5月にテーマ発表後、我々ロボット研究会は全学生に呼びかけ何度もルール確認会やアイデア検討会を行う。6月には2つのアイデアに絞り込み、7月より設計製作を開始。8月の夏休みには暑さと戦いながら製作を続け、9月には図面では分からなかった問題が浮上。10月には徹夜作業が続き、試走も出来ぬまま大会に臨む。不安は現実へと…

試合はAチーム1回戦、Bチーム2回戦敗退と悔しい結果に終った。しかし、ロボコンは参加することに意義があり、アイデアの実現を目指し、自ら考え、実践出来る絶好の機会だ。正直ロボコンは楽ではないが、

ロボットが完成し、動作したときそれまでの苦労は吹っ飛び、最高の充実感や達成感で満たされた。貴重な思い出だ。いよいよ来年はこの大牟田で開催だ。後輩のリベンジに期待する。

最後に校長先生をはじめ、お世話になった教職員、OBの皆様に心より感謝したい。



大会本番を迎えてAチーム（手前）

プログラミングコンテスト

第15回高専プロコン

3I 野田 祐輝

10月9日、10日に愛媛県新居浜市で開催された「第15回プログラミングコンテスト」の競技部門の「記憶のかけら」に出場しました。競技の当日まで改良を重ねたのですが、残念ながら結果は一回戦敗退、敗者復活戦でも敗退でした。今回の競技の内容は、写真のような画像を分割し、それらをバラバラにしたものから、元の画像の復元を、自作のプログラムで競うものでした。有明高専を含め、どの高専もほぼ確実に画像を復元することができたので、復元するまでの時間が勝負の決め手となり、惜しくも2回戦に進めませんでした。

また、有明高専からは同時に自由部門にも出場し、こちらは5Iの方々を中心としたチームで、敢闘賞で表彰を受けられました。

今回は、競技部門では結果を残すことはできませんでしたが、他の高専のプログラムやプレゼンテーションを見ることができ、新しい見方や考え方を知り、勉強になりました。この経験を生かし、今後のプログラム開発や次回のプログラミングコンテストに繋げていきたいと思います。

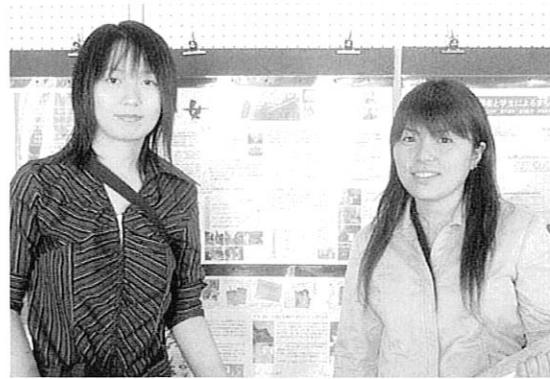


会場前にて

デザインコンペティション2004

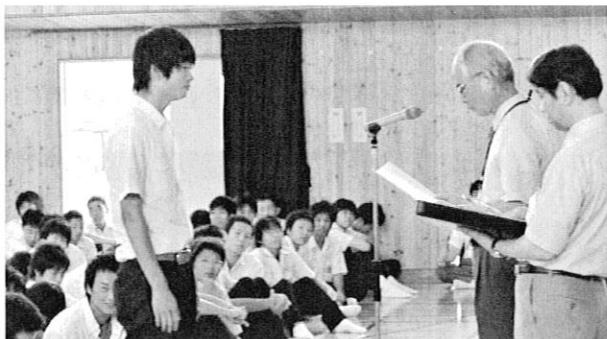
「全国高等専門学校デザインコンペティション2004（高等専門学校連合会主催）」の「地域交流シンポジウム部門」で、専攻科1年の入江さんが優秀賞（他6作品受賞）！同シンポの趣旨は、地域に根ざした高専のあり方を探ること。そのもとで地域で元気に学習するユニークな学生活動の紹介と情報交換が行われた。そこで入江さんは、昨年度の加藤研が一体となり取り組んだ八女市福島地区でのまちづくり活動などを、パネラーとして紹介。テーマは「八女の力」。同地区の町・人との交流が自分の価値観を育ってくれたことを、緊張しながらも一生懸命説明。「八女の力」を自らの成長に活かせた君にも「力」があるんだよ。

(A科・加藤浩司)



右側が入江さん

学校特別表彰



全校集会で校長先生から表彰される井形君

本校電気工学科3年の井形亮君は本年8月に島根県で開催された「全国高校総合体育大会（インターハイ）」の陸上競技（200m）で優勝しました。この快挙は、本校の名誉であり、「高専ここにあり」と国内の高専認知度も高めるとともに全国高専の学生に「やればできる」の夢と希望を与えるすばらしい出来事です。本校ではその栄誉をたたえるために、井形君を特別表彰することにし、夏休み明けの全校集会で表彰式を行いました。今後も、井形君に続く学生が本校のみならず全国の高専から現れることを期待します。

10年後の感謝状

地震による災害は恐ろしい。何の前触れもなく、一瞬にして何の落ち度もない人々からかけがえのない命を奪う。誰にも罪はない。誰に文句の言いようもない。だからこそ、皆で助け合わなければならない。10年前に起こった阪神淡路大震災でも、数千名を超す尊い命が失われた。そこには父や母を亡くした子供たちがいた。両親を一度に失った子供たちもいた。その悲しみと絶望は計り知れない。本校の当時の学生会は遺児たちに何とか手助けはできないかと立ち上がり、募金活動を行って集めた義援金を遺児たちの奨学金として送った。その活動に対して遺児奨学金基金の代表理事の方から感謝状が本年届いた。募金活動から10年後の感謝状である。そのとき小学6年生であった子供たちは大学を卒業する歳になる。学生会が送った奨学金がきっと役に立ったのだと思う。だからこそ本当に心のこもった感謝状であるような気がする。



いただいた感謝状と現学生会役員
(副会長5C金子創太君)(会長5M鶴田弘之君)(副会長3M陶山俊介君)

発見・提案:城下町くまもとの“こら良か素材”活用100パターン

8月9日(月)、「発見・提案:城下町くまもとの“こら良か素材”活用100パターン（日本建築学会九州支部都市計画委員会主催／熊本市共催）」で、本校生チームが優秀賞（他3チーム受賞）！これは、九州と近県の高専・大学各校が結成する計27チーム（97名）で競われたコンテストであり、その課題は、熊本城下町のまちづくり素材を発見して活用方策を提案することであった。受賞者は、専攻科2年の諒訪園さん（新谷研）、同1年の入江さん（加藤研）と山本君（北岡研）、5Aの吉田さんと吉富さん（加藤研）。作品は、視覚だけでなく触覚でも確認できる“Sign”の町中発見に立脚し、“五官で感じられるまちづくり”的必要性を提案したもの。学年・研究室も違う即席チームがココ一番でチーム力を發揮する！本校生の魅力を、今回のことでの強烈な実感させられた。

（A科・加藤浩司）



表彰式後の記念撮影

資格試験合格者

■建築製図技術認定

3A 荒木 剛	生野賢一朗	井口 慶一	上杉 名央
浦田 美記	江頭 雄平	大坪 史人	小倉 晴菜
鹿毛 肇嗣	加藤 亮	神尾 沙和	木佐木悠輝
草場 紀法	倉原 由衣	黒木 理恵	古賀絵里菜
近藤 志穂	坂井 努	柴 寛子	坂本 夕子
瀬崎 真澄	千光士あや	多田隈雪乃	田中 孔之
鶴田 陽生	中村 陽子	中山 理紗	成富 仁史
野上 綾子	野田 隼人	原 可南子	春田 親輝
松延 良枝	松藤 稔	宮崎 進	安田 有希
山鹿ひろみ	山口 春菜	吉田 大輝	

■第三種電気主任技術者

5E 都甲 憲二

■第二種電気工事士

5E 平川 皓介 児玉 俊介
東 修三 藤江 周作

■工事担任者

5E 北田 高博 猿渡 光央
中村 貴幸 中村 祐

シリーズ クラブ紹介

ロボット研究同好会

5M 中島 正寛

今年から、ロボット研究同好会となり、新しいスタートをきりました。現在30名がこのクラブに所属しています。活動内容としては、名前の通りロボットを創っています。

毎年行われるNHKアイデア対決ロボットコンテストに出場するため、先生や技術職員の方々の指導を仰ぎながら、学生が設計から製作まで行っています。今も、10月24日に行われる九州大会へ向けて、土日返上で連日頑張っています。

ロボコンは機械科の学生がするものと思っている人もいるかもしれません、学科は関係ありません。ロボット創りは、本校で最近よくいわれる複合・学際性が要求される分野ですから。現在も、機械・電気・電子情報の学生が、学科・学年の枠を超えて、力を合わせ創っているところです。

自分のアイデアで、自分の手で、世界にひとつしかないロボットを創ってみませんか！興味がある人はぜひ入部してください。待っています。



ロボット研究同好会メンバー

DIY愛好会からロボット研究同好会まで

顧問教員：川崎義則

昭和56年（1981）にD I Y愛好会発足。「日常生活につながるような物づくりを！よければ高専祭で製作物のデモを！」が設立趣旨。近藤誠四郎先生と私が顧問を受けた。当初、オルガンの自動演奏や一人乗りホバーカークraftを手がけた。特に後者では、機械のベテラン教官が絶対浮かないと断言された中、見事浮上させたときのM19期生諸君の誇らしげな顔は今も忘れられない。手がご不自由だった辻直孝先生の講義用テキストスタンド（自動具）や、からくり（茶運び）人形の製作等もD I Y愛好会の成果である。その後は、高専ロボコン開始から今日まで製作スタッフの中心として活動・活躍。いま、ロボット研究同好会となつた。これから物づくり実践の貴重な場づくりとなれば。

国際交流愛好会

4C 青木 啓悟

NGOって知っていますか？ Non Governmental Organization、日本語で非政府組織といいます。利益を目的とせず、海の向うで暮らす人々のために活動するのがNGOの目的です。活動と言ってもたくさんあります。直接海外に行き、現地の人々に日本の技術や文化を教える活動。海外で起こっている多くの問題を講演会などを開いて紹介し、国民にグローバルな意識を持たせる啓発活動。活動の形は違いますが、誰もが国際協力に汗を流しています。

私たち国際交流愛好会もいわば小さなNGOです。名前の通り様々な活動で国際交流をしようと頑張っています。4月に発足したわが愛好会ですが、昨年からAIC（Ariake International Cooperation）という名前で活動してきました。海外に行って現地支援などの大きな活動はできませんが、国際問題を勉強して自分たちにできる国際協力を模索しています。

今までの活動は、主に大きなNGO団体が開く講演会に出席することでした。現地に行った人の体験談を拝聴。また、参加者同士で討論会が行われ、自分の意見を述べ、国際交流に対しての多くの知識や国際観を得ました。他にチャリティーフェスタに参加し、 Chernobyl 原発事故の被災者が作ったお菓子や小物を売りました。売上は被災者の治療費に使われました。

国際交流愛好会は、まだ駆け出しで大きな活動を企画・運営することはできません。しかし、国際協力に携わりたい気持ちは誰もが持っています。私たちの活動がほんのわずかでも、世界のどこかの誰かのためになることを願い、身近なことから活動していくこうと思います。



国際交流愛好会メンバー

トピックス

燃料電池自動車来たる!!

11月4日(木)に燃料電池自動車が来校し、その説明・試乗会が行われました。これは、近い将来、車社会の主力になるであろうと予想される燃料電池自動車の広報と普及を目的として、政府が行っているキャンペーンの一環として実施された行事です。

当日は専攻科棟前に燃料電池自動車を展示し、選抜されたクラスが順番に説明を受けたあと、抽選で選ばれた学生が燃料の許す限り試乗しました。この車の燃料は水素ガスで、空気中の酸素と反応させ、そのとき

に発生する電気エネルギーでモーターを回して走ります。水の電気分解と反対の反応ですから、出てくるのは水だけです。排気ガスなし、騒音なしなど環境に優しいのはもちろんのこと、燃料の水素ガスも自然界の物から豊富に得られる物質であり、まさに理想の車なのです。しかし、まだ値段が高く、水素ガススタンドもほとんどないので普及していません。私たちが環境意識を高め、多くの需要を作つて少しでも早く手ごろな値段になることが望まれています。



エンジルーム



水素ガス注入口(左側)と
水素注入時アース端子口(右側)



説明を受ける31の学生達

試乗中

編集後記

秋の日暮れは物悲しく、はかない。夜の闇へ向かって瞬く間に光を失う。しかし、色づいた葉をまとう木々は刹那の暮色に染まり、一瞬その鮮やかさを増す。

本校キャンパス内の木々も秋の装いとなり、それが夕日に染まる頃はしみじみとした情景を与えてくれる。表紙の写真は建築棟北側にある庭園である。キャンパス内の植物を表紙で紹介するシリーズの第2回目として取り上げた。この庭園は建築学科の学生が設計したもので、石畳の中に数種の落葉樹と自然石を配置し、秋の情緒を楽しむのには最適なように考えられている。

夕暮れ時、透明度の高い冷氣の中、足元に落ち葉の感触を感じながら木々の傍らに腰を下ろして感傷的気分になるのも一興か。

有明高専だより 第114号

平成16年11月20日

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>